

『ショパンへのオマージュ』
平井元喜 出版記念リサイタル開催

文◎編集部 劉優華



テイ大学修士課程で学んだ後、アジア、アメリカ、ヨーロッパ各地で演奏活動をおこなっている。

「ショパンは、バッハやモーツァルト、ベートーヴェンらとともに、もつとも敬愛する作曲家のひとりです。ショパン生誕200年という記念すべき年に、この天才芸術家を讃えて作曲した『ショパンへのオマージュ』の楽譜を出版することができ、とても嬉しいです」

と語る平井さん。どのような想いをこの曲に込めたのだろうか？

「テーマを含む大部分は、私が10代の頃つけていた作曲ノート『音日記』に基づいており、約10年の歳月を経た1999年、『ショパン没後50年』の機会にオマージュとして完成させました。

構成は3部形式で、イントロダクションに続き、詩情豊かな主題が優しく歌われ、主題のモチーフを展開させた中間部を経てテーマが再現され、遠い過去を懐かしむようなコーダへと至り、短いカデンツァの後、静かに曲を終えます。

主題やモチーフをはじめ、ショパンの作品からの引用はありませんが、(ピアノの詩人)ショパンの崇高な精神と、彼が過ごした優雅で自由な時代の香りが伝わればと思います」

2009年に発売された平井さんのCD『平井元喜ピアノ作品集 CANTO AMOROSO』にも収録されたこの曲、難解な現代曲ではなく、メロディーとハーモニーに満ち溢れていて、演奏効果も高い美しい曲という印象を受ける。また、この曲を連弾でも楽しんでほしいとの思いから、ショパン生誕200年を迎える今年、連弾版も完成した。

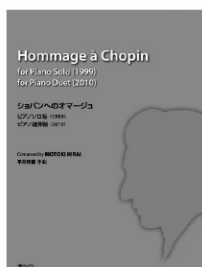
「この独奏曲をピアノ連弾用に改編するにあたり、声楽やオペラから多大な影響を受けたショパンの(ピアノを歌わせる)という理想を体現すべく、常に旋律的であるように心がけました。また、ソロにはない連弾ならではの合奏の楽しさや、4手(20指)という技術的利点を無理なく生かすことを考慮しました。全体的に規模が少し大きくなっていますが、連弾版は初中級者の方と上級者の方が一緒に演奏することも可能ですので、ぜひアンサンブルとしても楽しんでいただければと思います」

平井元喜ピアノリサイタル
7月10日(土) 19:00 浜離宮朝日ホール
指定席¥5,000 / 自由席¥3,000
☎ ミリオンコンサート協会 03-3501-5638

楽譜出版記念のリサイタルも開催される。ロンドンのウイグモア・ホールはじめ、ヨーロッパ各地で絶賛された自作の『ショパンへのオマージュ』(ソロ版・日本初演)はもちろん、バッハのフランス組曲第2番やベートーヴェンのソナタ第18番、ショパンのポロネーズやマズルカ、スケルツォなど、そして祖父・平井康三郎さんの生誕100年を記念して、幻想曲『さくらさくら』も演奏する予定。ショパン・イヤーにぴったりのこの曲。聴いてみて、弾いてみてほしい1曲だ！

現在、イギリスを拠点にヨーロッパで活躍する、ピアニストで作曲家の平井元喜さん。このたび、ショパン生誕200年に際し、自作『ショパンへのオマージュ』(ピアノソロ版&連弾版)の楽譜を出版した。

祖父に作曲家の平井康三郎氏、父にチェリストの平井丈二朗氏を持つという、音楽一家に生まれた平井さん。英国王立音楽院大学院ピアノ科、ロンドン・シ



楽譜『ショパンへのオマージュ』
平井元喜作曲 ¥1,050 (税込)
ISBN 978-4-88364-298-4
www.motoki-hirai.com